科目ナンバリング	U-LAS01 10006 LJ38				
授業科目名<英訳>	東洋史II Oriental History II		担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	太田　出
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火2/木3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

これまでの歴史は主に「陸の論理」から描き出されてきた。たとえ「海洋史」「海域史」と唱えていたとしても、それは「陸の論理」を援用したものにすぎず、「海の論理」から新たな歴史を構築しようとするものではなかった。そのため「海洋史」「海域史」にいう海は、あくまで海上貿易、海上交通（海運）史の範疇に止まっており、海洋それ自体をみつめようとするものではなかった。本授業では、まず東アジアの海をめぐる現状を確認したうえで、海軍外交史、領海主権をめぐる歴史、漁業史の３つの視点から新たな海洋史を展開するとともに、「陸の論理」の対となる「海の論理」とは何なのかについて考えてみたい。

[到達目標]

東アジアの海洋をめぐる新しい歴史について概説的な知識と基本的な理論を身につける。

[授業計画と内容]

第１回：ガイダンス
第２回：緊張高まる東アジアの海
第３回：漫画『空母いぶき』『あおざくら』に見る日本の周辺海域
第４回：雑誌『Jships』に見るアジア海域諸国における建艦競争
第５回：20世紀以降における航空母艦の登場と東アジア海域
第６回：海軍外交史①――鄭和「下西洋」とアフリカ
第７回：海軍外交史②――日本の練習艦隊
第８回：海軍外交史③――台湾の敦睦艦隊
第９回：領海主権をめぐる歴史①――A・T・マハンの海権論
第10回：領海主権をめぐる歴史②――海権論と中国
第11回：漁業史①――博覧会と漁業
第12回：漁業史②――漁民と国家
第13回：漁業史③――台湾からの密輸問題と捕鯨
第14回：日本の海洋認識、中国の海洋認識、そして「海の論理」
第15回：フィードバック（後日連絡する）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の小テスト（3回ほど、持ち込み不可）／平常点（出席と参加の状況）などによって総合的に評価を行なう。割合は60%／40%を予定しているが、詳細は初回授業（ガイダンス）にて説明するので必ず出席すること。

東洋史II(2)へ続く↓↓↓

東洋史II(2)

[教科書]

授業中にレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に参考すべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加するか、あるいは復習として授業後に読んで欲しい。小テストでは、授業中に紹介した参考文献を読んでいるものとして出題するから注意しなさい。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部